

I 港区立赤坂子ども中高生プラザ・学童クラブ概要

1. 基本理念及び運営方針

(1) 基本理念

赤坂子ども中高生プラザ（以下、「プラザ」という。）は、児童を権利行使の主体として捉え、港区立子ども中高生プラザ条例及び施行規則（以下、「条例」という。）に基づき、下記の基本理念を掲げ、子どもの権利を擁護し、健やかな成長を願って事業の運営を行ってまいります。

- ① のびのび楽しく過ごす心を持ち、ありのままの自分に力があることを自覚し、自主的に活動を進められるように支援します。
- ② じっくり考える力が育つように働きかけ、仲間とともに協力し、自治を作っていく力を育てます。
- ③ 一人ひとりの違いを認め合いながら、人間として温かな心を育むよう支援します。
- ④ 生き生きと健康な身体を作ることを働きかけ、児童の体力増進のための活動を進めます。
- ⑤ 中高生が心地よく過ごせる居場所となるよう環境を整え、支援するとともに、自主的に文化、芸術、スポーツ活動の向上を図れるよう、活動を進めます。
- ⑥ 地域の乳幼児や小学生と子育て中の保護者が、主体的に生き生きと安心して過ごせる場を作ります。
- ⑦ 学童クラブの子どもたちが生活の場として安心して過ごし、個々の力を伸ばせるよう働きかけます。
- ⑧ 地域との連携を深め、協力、交流を行うための組織を作り、活動を進めていきます。
- ⑨ 児童に関わる情報収集に努め、発信、提供の場になれるようにします。

(2) 全体の運営方針

- ① 来館者一人ひとりのベスト・インタレスト（最善の利益）を出発点とした運営を行います。
- ② 地域をステージとした多様な活動に参加できるように、拠点施設としての運営を行います。
- ③ 児童が友情を育み、仲間と集える「居場所」を共に作っていく運営を行います。
- ④ 障害のあるなしに関わらず、だれもが自分らしい選択で活動できるノーマライゼーションの考えに基づく運営を行います。
- ⑤ すべての児童・保護者等が性別にとらわれず、自分らしく豊かに生きることのできるよう男女平等参画の視点から運営を行います。
- ⑥ 子育て中の家庭を支援し、親も成長できるよう、共生の視点から運営を行います。
- ⑦ 高齢者施設との交流を深め、世代間交流を促進する運営を行います。
- ⑧ ボランティアの育成に努め、社会参加への機会となる運営を行います。
- ⑨ 利用者の個人情報保護の適正化に取り組むとともに、職員の倫理綱領に基づく行動規範を遵守し、サービスの質の充実を図ります。
- ⑩ 地域に信頼され、親しまれる施設、より一層賑わいのある施設を目指します。

(3) 具体的な方針

条例に基づき、児童が心身ともに健やかに成長し、豊かな情操を育むようにするため、大型児童センターとしての役割を果たしつつ、「地域とともに育つ」という視点から、開かれた施設づくりを進めます。

この観点により、乳幼児から18歳未満の児童の心のよりどころとなり、かつ“居場所”として、児童の体力増進、文化・芸術活動の拠点になるよう、企画運営を行っていきます。

① 地域とともに育ち、信頼される施設を目指し、開かれた施設づくりを推進します。

- ・ 児童が安全に、安心して過ごせる施設運営を行います。
- ・ 児童の遊びや体力増進、文化・芸術の拠点となるような企画と運営を目指します。
- ・ 児童を優先しつつ、地域のニーズに柔軟に 대응されるよう、開かれた施設運営を行います。
- ・ 児童に関する関係機関、とりわけ近隣の機関等と連携し、有機的なネットワークを構築します。
- ・ 学童クラブにおいては、児童の健全育成に十分配慮し、更に充実した運営を目指します。
- ・ 港区の「子どもの未来応援施策」実現に向け、中高生の居場所機能を充実させるよう取り組みます。

② いろいろなニーズを持った児童が参加しやすいように、利用者の状況を把握しながら自主的な活動を支援し、ともに行動しながら、交流する喜びや満足を感じられるような活動内容を提供します。

- ・ 職員の専門性を高め、質の高いサービスを提供します。
- ・ 児童が自主的に参加できる場所として、児童の欲求を敏感に捉えながら、自主的な活動を進められるよう、配慮をしていきます。
- ・ 中高生に対して、地域等の協力も得ながら、本物の文化、芸術、スポーツなどの素晴らしさを伝えられるような活動を展開していきます。
- ・ 障害児の夏季休業日等の受入れに、適切に対応し支援します。

③ 高齢者施設との交流を大切にします。

- ・ 併設の高齢者施設を利用される方々と、日常的に自然な交流ができるよう工夫し、世代間交流ができるような活動を企画します。
- ・ 高齢者施設との交流については、ボランティアや見学を行うとともに、併設の高齢者施設と連携し、児童がより高齢者福祉に興味・関心を持つことができるような機会を設けます。

④ 分館である青山館との連携を深めます。

- ・ 児童・保護者が両館の施設、事業で交流を深めるとともに、職員についても日常的に企画行事や運営面で協力し合い、相乗効果が得られるような運営を目指します。

2. 利用日時

(1) 赤坂子ども中高生プラザ

港区立子ども中高生プラザ条例等に基づき、次のとおり行いました。

【開館日】 通年

(国民の祝日に関する法律に定める休日、12/29～31、1/2～3を除く)

【開館時間】 9：30～20：00

(小学生の利用は、ひとりで帰れる時間を考慮し、「午後6時まで」を推奨)

障害児夏季休業日等支援事業による受入れ拡大 (午前8時00分から)

※なお、12月29、30日については、年末施設開放を行いました。

(2) 学童クラブ

港区学童クラブ運営要綱に基づき、次のとおり行いました。

【事業実施日】 ①月曜日～金曜日

②土曜日

③三季休業期間の平日

(国民の祝日に関する法律に定める休日、12/29～31、1/2～3を除く)

【事業実施時間】 ①下校時～19：00

②8：00～17：00

③8：00～19：00

(3) 子育てひろば

港区子育てひろば事業実施要綱に基づき、次のとおり行いました。

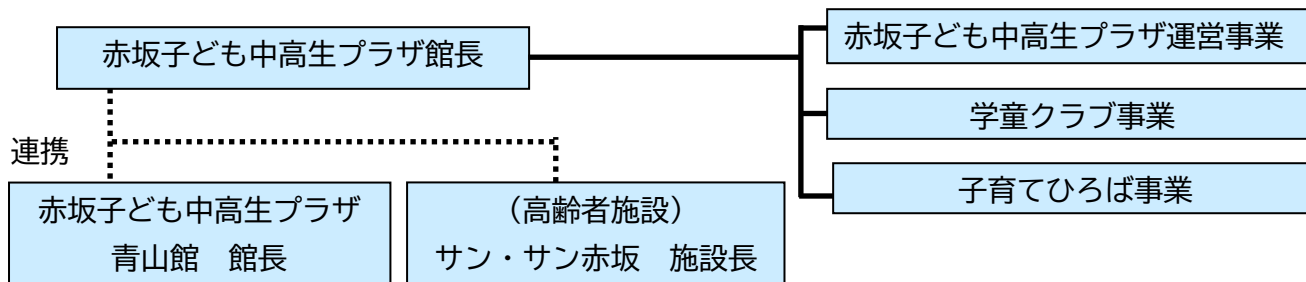
【事業実施日】 通年

(国民の祝日に関する法律に定める休日、12/29～31、1/2～3を除く)

【事業実施時間】 通年 10：00～18：00

Ⅱ 運営管理

1. 職員組織体制



2. 職員体制

区分	館長	副館長	児童指導員			事務員	合計
			プラザ	学童クラブ	子育て広場		
正規・常勤	1	1	6	4	3		15
非正規	常勤		4	1	1		6
	非常勤		8	5	1	3	17
計	1	1	18	10	5	3	38

(令和5年3月31日現在)

3. 職員研修

運営方針を具体化し、一人ひとりの利用者のニーズに対応した専門的サービスを提供するため、日常的に職員の資質向上を図る研修を行いました。

このため、法人の職員研修計画に基づく研修のほか、他の児童施設とも連携しながら教育研修を行うなど、計画的に人材育成を進めてきました。

(1) 施設内研修（法人及び分館との連携研修含）

実施一覧

- ・ 新任研修
- ・ 管理職研修
- ・ 中堅研修
- ・ 非常勤職員研修
- ・ 指導職研修
- ・ 不審者対応訓練
- ・ 上級救命講習

(2) 外部研修

下記の機関・団体が主催する研修に職員を派遣し、職員の経験、知識や技術の程度・段階に応じた研修を受講させることにより資質の向上を図るとともに、資格取得などの支援や他施設の見学などを行いました。

①港区研修

- ・夏場の感染症講習会
- ・ドッジボール審判講習会
- ・障害のある子どもとグレーゾーンの子どもの支援
- ・国産材端材の木エクラフト ～SDGs を考える～
- ・小児精神科医から見た養育困難家庭への支援
- ・子どものこころとその対応 ～SOS に気づいてつなげる～
- ・愛着に問題がある子どもの理解と支援
- ・子ども家庭支援センター・児童相談所との連携
- ・子どもの権利の視点から児童館活動を捉え直す

②その他の研修

- ・東京都放課後児童支援員認定資格研修
- ・第6期 JUMP-JAM 第1回スタッフトレーニング
- ・ぜん息・食物アレルギー対応研修
- ・アナフィラキシーの基礎知識と緊急時対応の実際

4. 防災計画

防災訓練実施報告

月	種類	内容	備考
4	消火訓練	・施設中庭での水消火器による消火訓練	
5	図上訓練	・防災ビデオ上映と意見交換 ・中央監視室内の手順確認	
6	消火訓練	・避難ルートの試行錯誤（座学による避難誘導訓練）	
7	図上訓練	・火災報知器対応訓練	
8	ビデオ研修 消火栓確認	・防災ビデオ（自衛消防活動）	消火散水栓
9	BCP研修訓練	・業務継続計画研修および訓練 ・簡易設置型止水盤の確認	特養・児童の BCP
10	総合・合同訓練	・町会等との地域合同防災訓練 ※コロナ禍のため、資料配布	消防署指導 地域町会合同・ 資料配布
11	消火・避難訓練	・大震災想定の日勤者による避難誘導訓練 ・福祉避難所開設訓練	簡易ベッド組 立・パーソナル スペース設置
12	消火訓練	・消火器訓練による消火訓練 ・火災報知器訓練	水消火器
1	ビデオ訓練 消火訓練	・防災ビデオ（消火器・消火散水栓使用） ・スプリンクラー作動時マニュアルの確認	スプリンクラ ー作動

2	不審者対応訓練	・安全器具の使い方 ・実践訓練	
3	図上訓練	・火災時避難誘導ルートの検討 ・防火扉・消火散水栓・消火器の位置 ・現在の避難誘導ルートの再検討	避難誘導ルート
<<その他実施事項>> ① 日常における操作訓練(スプリンクラー、非常通報装置、火災報知機、初期消火体制等) ② 上級救急救命講習への参加 ③ 災害時防災協定の継続 ④ 港区実施の防災通信訓練の実施			

Ⅲ 港区立赤坂子ども中高生プラザ運営事業

1. 運営方針

(1) 運営方針

「児童館は子どもの居場所」を合言葉に、さまざまな年代の子どもたちとその保護者が、安全安心に自分らしく過ごせるよう環境を整えました。令和4年度は、「子どもの参画」を重点ポイントとし、乳幼児とその保護者、小学生、中高生とそれぞれの年代からの声を聴き、職員も一緒に考えるスタイルで「やりたいことの実現」を目指しました。

(2) 指導の重点

- ① なんで～も委員会、懇談会などで意見を聞き、声に応える方法で企画運営を行いました。クラブ活動などは、子どもたちの投票により、実施するクラブを決定いたしました。
- ② 各部屋の見守りを強化し、職員ローテーションによる気づきを報告しあう体制を整えました。

2. 児童館事業

(1) 小学生対象の事業

① 定期活動

部屋	活動名	内容	参加人数
メディア	ローマ字検定	ローマ字入力を習得し、検定を受ける	17名
	月間企画	PCを使用しての制作企画 なんで～も委員会発案による企画	28名
クラフト	期間工作	おすすめ工作の作り方の掲示や材料の提供 (月1～2回)	約400名
	月間企画	テーマ・材料を決めての工作	107名
アリーナ	月間企画	集団遊びやスポーツ企画(アリーナに集合、 ペタンク等) なんで～も委員会発案による企画	168名

② 特別活動

部屋	活動名	内容	参加人数
メディア	行事に向けた企画	納涼祭や文化祭に向けての商品作り	82名
	インターネット 講習会	講師によるネットリテラシー指導	7名
	ローマ字検定王	PCでのローマ字入力を楽しく習得し、競う	10名

クラフト	陶芸教室	講師による陶芸指導	42名
	高学年企画	高学年向けの材料、 道具を使ったアクセサリー作り、工作等	10名
	調理企画	ランチ作り、おやつ作りなどの調理企画	8名
	行事に向けた企画	なんで～もショッピングや文化祭に向けて の商品作り	168名
スタジオ	伝統文化 (ことさん)	講師による箏・三味線の体験指導、館内発表 表への出演(延べ6回実施)	96名
	音楽活動	音楽活動(ハンドベルなど)、館内発表会の 実施、カラオケ等の遊びの提供	30名
アリーナ	ドッジボール	港区児童館ドッジボール選手権大会に向け チームを作り練習を行う	延べ 339名
	専門講師による 講座企画	講師を招いて、専門的なスポーツ教室を行う (ラート体験会)	30名
その他	おでかけハロウィン	仮装をして地域のお店を回る	14名

(2) 中高生対象の事業(中高生居場所づくり事業)

① 定期活動

活動名	内容	参加人数
ボドイチ	ボードゲームを通じての交流	83名
B-SPO	ダーツやビリヤードを通じての交流	53名
まなび舎 in なんで～も	中高生占有コーナーでの自主学習、交流の場	409名
ゲーム大会	テレビゲーム等を通じての交流	2名
NAN-SPO	スポーツを通じての交流	60名

② 特別活動

部屋	活動名	内 容	参加人数
クラフト	月間企画	テーマ・材料を決めて行う工作など	17名
スタジオ	予約会議	スタジオ利用に関する次月の予約、連絡調整、バンド交流	1名
	セッション会	演奏方法等の音楽知識を共有と交流	5名
	スタジオレッスン	講師によるレコーディング体験	10名
	プラカラ	カラオケを通じた交流	82名
	レコーディング企画	専門家指導のもとレコーディング体験会 (ティーンズライブの代替として実施)	10名
ラウンジ 学び舎	館内宿泊 よるで～も	長期休業期間中の宿泊を伴った自主学習支援 企画	19名
	まなびちゃん	大学生ボランティア等による学習、スポーツ 交流、進路相談会	9名
	フリスタ	楽器を弾いたことがない、もしくは初心者の中 高生を主対象とした楽器演奏体験	11名
	なんで～も委員会	プラザ(館)の運営に関する話し合い、活動内 容の検討	68名

(3) 全年齢対象の事業

特別活動

部屋	活動名	内 容	参加人数
メディア	メディアシアター	映画等の上映会	250名
	ペーパークラフト	制作活動、絵画コンテスト 季節に関する活動	約80名
クラフト	ワークショップ	テーマ・材料を決めての工作等	約750名
ラウンジ	月間企画	図書活動、交通安全講話、火災安全講話	約70名

その他	チョークでおえかきタイム	中庭の地面にチョークでおえかきをして楽しむ	53名
	ハロウィン	館内で謎解きや写真スポットでの写真撮影	60名

3. 年間行事

(1) 行事計画に基づく行事

月	活動名	内 容	参加人数
4	ウェルカムなんで～も	新1年生に対して、祝福・歓迎する行事	20名
5	こどもの日行事	子どもの成長と健康を願うための行事	71名
6	スポキッズ	乳幼児の年齢別グループ活動の交流行事	36名
	親子交流行事	親子で親しみ、保護者同士の交流を図る行事	5組
7	納涼祭 (高齢者施設と共催)	高齢者施設と共催し、地域の方々と楽しむ夏祭り	253名
8	低学年バスハイク	バス遠足やキャンプなど児童同士の交流を深め、楽しむ行事	57名
	打ち水大作戦	子どもたちのプール遊びに使った水で、高齢者の皆さんと打ち水を楽しむ行事	17名
	よるで～も	【青山館との連携行事】 館内での宿泊を通して、中高生の交流を深める行事	19名
	プラネタリウム	館内で移動式プラネタリウムを楽しむ行事	116名
9	KIDSZOO (キッズー)	乳幼児の年齢別グループ活動の交流として 移動動物園の呼び、動物との触れ合いを楽しむ行事	98名
	高学年キャンプ	【青山館との連携行事】 宿泊行事を通して、児童同士の交流を深める行事 令和4年度は館内宿泊行事に変更して実施	26名
10	あきる野市里山体験	あきる野市の自然に触れ環境学習を行う行事	28名
11	文化祭典	文化・芸術活動の展示と発表を楽しむ行事	194名
	乳幼児バスハイク	乳幼児とその保護者を対象に、バスを使用して外出を楽しむ行事	24名

12	たんぽぽクラブ クリスマス会	民生・児童委員「たんぽぽクラブ」との共催で 乳幼児対象のクリスマス会を楽しむ行事	76名
2	レコーディング体験	中高生による音楽表現活動（バンド・ダンス）の発表。 今回はレコーディング会に変更して実施	10名
	節分・もちつき大会 (高齢者施設と共催)	高齢者施設と共催で、季節の伝統行事及びもちつき を楽しむ行事	160名
3	キッズランド	乳幼児の年齢別グループ活動の交流行事を行う	66名
	PlaZania	子どもたちのお店屋さんを通じて交流を深める行事	81名
	中高生交流行事	文化やスポーツに親しみ、中高生の交流を深める行事	15名

(2) 連携行事

月	活動名	連携機関	参加人数
4	交通安全教室	赤坂警察署（スクールサポーター）	21名
9	赤坂 秋まつり	赤坂通り商店会等	多数
	交通安全教室	赤坂警察署（スクールサポーター）	14名
10	みなと区民まつり	みなと区民祭り実行委員会	多数
	港区児童館 ドッジボール選手権大会	港区内の児童館・プラザ	18名
11	火災予防講話	赤坂消防署新町出張所	17名
	Minato Music Mates	赤坂、青山、港南、高輪、神明、麻布、の6プラザ	54名
1	中高生フットサル交流会	赤坂、港南、高輪、神明、麻布、芝浦、青山 の7プラザ	3名
12	港区児童施設交流会	港区内の児童館・プラザ	20名
2	プラザカップフットサル	赤坂、港南、高輪、神明、麻布、芝浦、青山 の7プラザ	8名
3	中高生バスケ交流大会	赤坂、港南、高輪、神明、麻布、芝浦の6プラザ	0名
	卓球交歓大会	本館・分館交流卓球大会	4名
	火災予防講話	赤坂消防署新町出張所	17名

4. クラブ・サークル活動

児童の興味、関心をもとに、学校・年齢を超えたグループによる継続的な活動を目的としました。

- ・子どもたちによる主体的な活動や運営、興味・関心の深まり、仲間意識の芽生えと深化、専門技術の向上などの支援を行いました。
- ・随時、活動報告などの情報公開及び新規メンバーへの呼びかけを行い、子どもたちの輪が広がるよう努めました。
- ・活動の成果を発表する場を設け、幅広い自主活動の支援を行いました。

令和4年度クラブ活動

クラブ名	講師指導	内容	対象	参加人数
レッツ!バトン!!	○	バトントワリングを楽しむ	小学生	345名
フットサル教室	○	フットサルを楽しむ	小学生	300名
バスケットボール教室	○	バスケットボールを楽しむ	小学生	308名
卓球タイム	×	卓球を楽しむ	小学生親子	23名
エコクラブ	×	環境について学ぶ	小学生	58名
ドッジボールクラブ	○	ドッジボールを楽しむ	小学生	339名
いろいろくらぶ	△ ※講師有のものと無しのもの有	子どもたちの意見から内容を決め、楽しむ (水遊びやパルクール体験会等)	小学生	140名

5. 相談活動

プラザでは、相談事業にも力を入れ取り組み、子育ての相談、地域活動の相談など気軽にお話いただけるような環境を作り、職員が対応するだけでなく保健師による相談会なども定期的に行いました。

子育ての相談に関しては、乳幼児保護者からの子育てに関するトイレトレーニングなど、日常業務内にて相談を受ける機会があり、その他にも、ノーバディーズ・パーフェクト・プログラムなどの開催により、職員と保護者だけではなく、保護者同士で育児の悩みや夫婦間の悩みに対して情報交換を行い解決ができるような援助を行いました。

小学生保護者からは進級によって友人関係が変わってしまったことなど、子どもをとりまく環境の変化についての相談などが寄せられました。

子どもからの友達関係の相談などは、落ち着いて話ができるようスペースを用意するなど配慮をし、必要に応じて専門機関を紹介しました。

また、地域で何か力になりたいと考えている方からの相談を受け、ボランティアとしての受け入れなどプラザとしてできることを一緒に考えました。

今後も、多様な相談に対応できるよう、職員の資質の向上に努めてまいります。

6. 子ども・保護者委員会

子どもの視点、利用者の立場に立って運営に取り組むため、子どもが気軽に参加し発言できる懇談会として「なんで～も委員会」を対象年齢に分けて開催しました。

活動名	内 容	参加人数
保護者対象 なんで～も委員会	ハンドマッサージをしながら館に対する意見や要望などを自由に話し合った	4名
小学生 なんで～も委員会	小学生が、館への要望や実施したい企画などを考え、話し合った	35名
中高生 なんで～も委員会	館内の企画内容に関する話し合い、制作活動をした	72名

7. 国際交流活動

児童が広く海外に目を向け、仲間の輪を広げ、さまざまな国の人たちとの交流ができるよう支援しました。令和4年度のテーマの国はインドといたしました。

活動名	内 容	参加人数
納涼祭ゲーム店	インドの食事について学び、インドの食事を知ることのできるゲーム店の開催	257名
文化祭ゲーム店	インドの文化について学び、インドの文化を体験できる内容のゲーム店の開催	139名

8. 高齢者施設等との交流

高齢者施設が併設されているという特長を活かし、世代間交流ができるよう支援しながら高齢者を身近な存在と感じ、敬いや思いやりの気持ちを育みました。活動の多くは、サン・サン赤坂職員と連携した児童高齢交流委員会が中心となって実施いたしました。

① 定期活動

月	活動名	内 容	対象	参加人数
5	サン・サン赤坂 ツアー	「サン・サン赤坂」利用者との交流及び高齢施設での活動についての紹介	乳幼児～保護者 高齢者	49名
6	しゃぼん玉 あそび	ふれあい広場にてシャボン玉遊び	乳幼児～保護者 高齢者	24名

7	七夕	オンラインにて七夕にちなんだ遊び	乳幼児～保護者 高齢者	21名
8	盆踊り交流	盆踊り体験	乳幼児～小学生	中止
	プラネタリウム 交流	アリーナにてプラネタリウム上映	乳幼児～保護者 高齢者・地域住 民	116名
	打ち水交流	ふれあい広場にて打ち水	小学生	7名
10	ハロウィン交流	オンラインにてハロウィンにちなんだ遊 び	乳幼児～小学生	25名
11	文化祭交流	デイサービスと作品の交換を行い、館 内で掲示	乳幼児～保護者 高齢者・地域住 民	多数
	おいもほり	おまつり広場にて、さつまいもの収穫	乳幼児～保護者 高齢者	7名
1	もちつき	「もちつき」のごっこ遊び	乳幼児～保護者 高齢者	60名
2	SDGs かるた	オンラインにて、SDGs かるたとり	小学生 高齢者	7名
3	絵クイズ	オンラインにて、絵クイズを出し合う	乳幼児～保護者 高齢者	4名

9. 地域の歴史や文化にふれる活動

地域と積極的に交流し、児童が地域を愛し誇りを持てるよう、また地域に開かれた施設づくりを目標として活動を行いました。

活動名	内容	対象	参加人数
地域懇談会	地域の代表による情報交換や懇談、 施設運営について報告など 第1回 書面開催 第2回 対面開催	学校関係、町会長や民生委員 など地域の方々	
咸臨丸探検隊	東京スター銀行見学	小学生	9名
	赤坂地区防災マップづくり	小学生	4名

	乃木神社見学	小学生	13名
	キッズ咸臨丸 桧町公園	乳幼児・保護者	26名

10. ボランティア活動

地域に根ざした児童館を目指すため、ボランティア担当を配置し、児童のボランティア精神を育むことができるよう、積極的にボランティア活動を行いました。

また、ボランティアで協力していただける地域の方を積極的に受け入れ、利用者にボランティア活動に関する情報の提供・活動を支援しました。

活動名	内容	参加人数
チャレンジ戦隊！ ボラレンジャー	港区ボランティアセンター「かんがり」事業（暑中見舞い、年賀はがき等）への協力や、地域の清掃などのボランティア活動。地域のボランティア団体の協力による工作活動。	36名
絵本づくり体験	青山ロータリークラブよりボランティアをお呼びし、絵本を描くことで自分について学ぶワークショップ。	9名
アニマルセラピー	青山ロータリークラブよりボランティアとセラピー犬2匹を呼び、犬との関わり方について学んだ。	8名

11. 食育活動

児童自らが自分の健康を守り、健全で豊かな食生活を送れるよう指導、支援しました。令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策を行い、食事に合う器の選び方をテーマに用途に応じた皿の作成を行いました。さらに作成した皿を使用し、食事を行いました。

活動	内容	参加人数
食育陶芸	食事に合う器の作成、食事	35名

12. 令和4年度 本館・分館との連携活動

(1) 連携事業の主な取組

① 年間行事

月	活動名	対象区分			場所／内容	参加人数
		乳幼児	小学生	中高生		
8	低学年バスハイク		○		八景島シーパラダイス	58名
	高学年キャンプ		○		館内でのお泊り会に変更し実施	26名
	中高生バスハイク			○	横浜ベイエリア ※申込用紙の配布を本館でも行った。	分館事業
	よるで～も			○	館内宿泊	19名
9	乳幼児バスハイク	○			砧公園	6組12名
2	中高生音楽表現発表会			○	ティーンズライブを計画したが、 今年度は専門家指導のもと レコーディング体験会を実施	10名

② 日常活動

対象	活動名	内容	参加人数 (赤坂のみ)
小学生	e-スポーツ大会	インターネットを利用したテレビゲーム交流試合	8名
小学生	卓球交歓大会	本館・分館の卓球クラブの交流試合	3名
小学生	ドッジボール交流会	港区ドッジボール大会に向けた、分館との交流会	15名
中高生	e-スポーツ大会	インターネットを利用したテレビゲーム交流試合	5名
乳幼児	赤坂青山 こぐまさんグループ 交換会	本館・分館の乳幼児グループ「こぐまグループ」 にて、それぞれ作成した作品の交換を実施	

(2) 職員による取組

活動名	内容	構成
納涼祭/青山館まつり	各施設の館まつりにて、本館職員・分館職員が それぞれ参加し経験を積む	本館・分館職員
本館分館連絡会	本館・分館内の運営について等の連絡調整	管理職／指導職
職員研修会	救急対応、不審者対応訓練等における合同研修会	本館・分館職員
陶芸作品焼成	赤坂の陶芸窯を使用し、青山館の陶芸作品を焼成	本館・分館職員

13. その他の活動

(1) 利用者のアンケート及び意見広聴

ラウンジやキッズルームに意見箱を常設、また、懇談会やなんで～も委員会など利用者の参画の機会を利用し、広く意見広聴を行いました。児童からは、「遊び」について様々なリクエストが寄せられ、館内掲示をするとともに実施の方向に向けて取り組みました。保護者からは、活動内容についてご要望やご意見をいただき活動内容に生かしています。

さらに年度末には、全利用者を対象に利用者アンケートをとり、目指すべき姿や取り組むべき施策の方向性を明確にすることができました。

(2) 苦情対応

令和4年度は、学童クラブ児童の朝の受け入れにて、インターナショナルスクールに通っている児童1名の早朝受入体制を整えておらず、当該児童の来室時間に職員が不在だったため、児童とその保護者が一度帰宅し、再来室していただくことができました。保護者並びに児童へ謝罪し、児童の出席確認のダブルチェックを行うことと、今後の緊急時連絡体制の周知を行いました。

今後も苦情があった場合には、真摯に受け止め、赤坂地区総合支所管理課報告、相談するなど改善すべきことは、早急に改善策を講じてまいります。

(3) 広報活動

① 「なんで～もステーション」

毎月発行している情報誌で、その月の行事や企画を掲載しています。館内配布のほか、学校、保育園、幼稚園、地域の町会長・自治会長や民生・児童委員の方等へお届けも行っていきます。(約1,500部、館内配布は約200部)

また、分館である「青山館」のおしらせ「カリッパ」も、受付窓口にて配布しています。

② 「ホームページ」

独自のホームページにより、随時、広報活動を行いました。ホームページには、施設の概要や「なんで～もステーション」、台風時の対応等の最新情報・緊急連絡事項等を掲載いたしました。

また、今年度は利用者からのご意見を参考にして、見やすさ・使いやすさを重視して改修を行いました。その後のご意見も、とても見やすくなったと好評でした。

③ 法人広報誌『元気です』

社会福祉法人東京聖労院の広報誌。年3回の発行で、赤坂子ども中高生プラザ等で行われた行事の報告、行事の予定を掲載しています。

(4) おもちゃの病院

港区の事業として、年12回(1か月に1回)、専門のドクターが来館し、各家庭よりお預かりしたおもちゃを修理していただいています。令和4年度は12回(4月～3月)の開催となりました。

(5) 学校等との連携

地域の公立小中学校、保育園、放課G0→クラブあかさかとは、日常的に情報交換を行い、連携を図りました。

また、赤坂小PTA自然体験部が実施する野外活動の支援要員として、職員2名を派遣しました。

このほか、「サン・サンなんで～も地域懇談会」を開催し、地域の町会・自治会長、行政機関、青少年健全育成団体の関係者のほか、幼稚園、小・中学校、保育園等の教育機関等の皆様と情報共有を行いました。

IV 学童クラブ（放課後児童健全育成事業）

1. 運営方針

放課後、保護を必要とする児童にとって心のよりどころとなり、安心して過ごせる生活の場となるとともに、友達との交流やさまざまな遊びを通して児童の可能性を広げ、成長発達に向けて一人ひとりへの細やかな配慮と働きかけを行いつつ、運営を行いました。

また、子ども同士、お互いが楽しく気持ちよく過ごせるよう、相手を思いやる気持ちを育てるなど、集団生活に必要な成長を促していくよう配慮した運営を行いました。

2. 学童クラブ事業

① 特別活動

活動	内容	参加人数
誕生会	誕生月の児童に関するクイズやレクリエーション・リクエストおやつを提供	多数
新入生歓迎会	友だち作りのきっかけとなる集団ゲームの実施	42名
外出行事	夏と春にバス外出で、博物館や遊園地に出かけ、児童同士の交流を図った。	計130名
駄菓子屋さん	学童ルームと中庭で駄菓子屋さんを行い、買い物ごっこをして普段とは違うおやつを楽しんだ。	多数
親子ふれあいイベント	親子一緒に作って遊べる工作やドッジボール、中庭での花火などで他の家族と交流する機会を設けました。	55名
年末お楽しみ会	年末のお楽しみ会として、軽食やケーキを食べたり、部屋を掃除をしたりして一年を振り返った。	80名
お祝いパーティー	お楽しみランチやおやつを提供し、卒業や進級を祝った。	76名

② 日常活動

来室から帰宅まで、学童クラブ室を拠点に、赤坂中高生プラザ内の各部屋で自由に過ごすほか、様々な企画に参加できるよう職員が見守りました。また、おやつタイムや帰りの会などを設けて、学童クラブで過ごす際の必要なきまりや生活リズムが身につくように支援し、高学年に対しては、自分で考えて行動できるよう声掛けを行いました。

<おやつ提供>

テーブルを仕切るパーテーションを導入し、手洗いや消毒などの感染防止措置を行いました。毎日午後3時から4時30分の間におやつを提供、子どもたちが適切なエネルギー補給ができるよう工夫しました。

アレルギーのある子どもに対しては、保護者に状況を確認した上で、別のメニューを用意するなど、個別の対応いたしました。

月1回のお誕生会の日には、誕生月の児童のリクエストを聞き、ケーキを用意するなど子どもたちに喜ばれるよう工夫しました。

<安全の確保>

出欠や入退室の把握を徹底するとともに、子どもたちに対しても、安全確保の意識が高まるよう、日常的に指導しました。また、学童クラブに在籍する児童の居住地域が広範囲に及ぶため、児童の帰宅時の安全を図れるよう、年間を通じて、5時と5時45分の2回、職員が付添い赤坂小学校までの「送り」を実施、港区学童クラブ見守りシステム事業の実施要項等にしたいがい、適切に運用しました。

③ 保護者との連携

連絡帳を通じてのやりとりのほか、以下のような取組を行い、保護者との信頼関係を築きました。

活動	内容	参加人数
個人面談	保護者との面談による要望、児童の状況の把握	60名
保護者会	保護者との意見交換・交流	多数
入会説明会	新年度学童クラブ入会対象者の説明会	多数

④ 学校、関係機関との連携

お便りの交換や、様々な話し合いの場を通して、赤坂小学校や放課GO→クラブあかさかとの協力関係を築きました。特に赤坂小学校とは連絡を密にし、問題が生じた際は速やかに解決を図っていけるように努めました。

V 子育て広場事業

1. 運営方針

乳幼児とその保護者が、自由に遊んだりくつろいだりするための専用の部屋「キッズルーム」の環境を整え、乳幼児とその保護者がともに参加し成長できる多様な活動を提供しました。

また、仲間づくりや情報交換ができるよう、掲示板や図書コーナーの配架なども工夫しました。

2. 子育てひろば事業

① 定期活動

活動名	内容	対象	参加人数
りすさんグループ はいはい・よちよちクラス	手遊び、読み聞かせ、 ふれあい遊びなど	0歳児と その保護者	678名
りすさんグループ ねんねクラス			425名
こぐまさんグループ	手遊び、工作、読み聞かせ、 運動遊びなど 登録制で10名定員	2歳児以上と その保護者	317名
うさぎさんグループ	手遊び、読み聞かせ、 ふれあい遊び、運動遊びなど	1歳児と その保護者	381名
わいわいクラブ	アスレチック、リズム体操、 かけっこ、集団遊びなど	おおむね1歳 半～3歳の子 とその保護者	186名
アトリエなんでも	講師を招いた造形・絵画活動	幼稚園児と その保護者	181名
壁面アート	キッズルームの壁面を飾ることを 目的とした大型制作	幼稚園児と その保護者	47名
プラタイム	電池を入れたおもちゃ（プラレール等） で遊ぶ活動	乳幼児と その保護者	164名
プチプラタイム	電池を入れたおもちゃ（0～3歳向け） で遊ぶ活動	乳幼児と その保護者	118名
たんぽぽクラブ	民生・児童委員による子育て支援活動 （工作・手遊びタイム等も行う） 年に6回、保健師・栄養士による 育児相談会も行う	乳幼児と その保護者	103名

② 特別活動

活動名	内 容	対象	参加人数
講師による企画	骨盤リセットヨガ、ベビーマッサージ、英語で遊ぼう、親子ヨガ等	乳幼児とその保護者	103名
赤坂図書館との連携事業	各グループ活動内にて「おはなし会」	乳幼児とその保護者	48名
キラキラ☆水遊び	「ふれあい広場」で寒天あそび	乳幼児とその保護者	7名
手遊びタイム	乳幼児で行うグループ活動を体験する活動	乳幼児とその保護者	18名
キッズリサイクル	不要になった育児用品の寄付を募り、無償で提供する。	乳幼児の保護者及び妊婦	25名
消防署との連携事業	乳児の救命救急講習会	乳児の保護者	12名

③ 保護者（母親）対象の事業

活動名	内 容	対象	参加人数
子育て支援 保護者対象企画	製作活動、ヨガ、育児相談等	乳幼児の保護者	40名
ノーバディーズ・パーフェクト・プログラム体験	子育て中の親のグループワーク（親支援プログラム）の体験版	乳幼児の母親	5名

④ 父親対象事業・祖父母対象事業

活動名	内 容	対象	参加人数
親子陶芸	講師による陶芸指導	乳幼児の父母・祖父母	30名

⑤ 乳児対象事業

活動名	内 容	対象	参加人数
生まれ赤ちゃん！ 乳児対象企画	はいはいレース	乳児とその保護者	89名

VI 令和4年度の事業を振り返って

1. プラザの運営

- ・ 宿泊行事やバスハイク等、前年度に開催できなかった行事を行い、子どもたちも新鮮な気持ちで行事に参加している様子が見られました。
- ・ 各部屋の活動は、多彩なプログラムを実施するのはもちろんですが、人気のあるものは申し込み初日で満員となってしまいうこともあったので、同月で複数回実施するなど大勢の子どもが参加できるよう機会を増やしました。
- ・ 今年度は中高生の利用が多く、バンド活動のみでなくスポーツやゲームが盛んに行われていました。他学年・他校同士の関わりも多く、中高生の居場所となっていました。
- ・ 併設のサン・サン赤坂との交流、分館である赤坂子ども中高生プラザ青山館との交流は ZOOM での交流やeスポーツ（インターネットゲーム等）なども行い、好評でした。

2. 学童クラブの運営

- ・ 学童クラブは安全安心な生活の場として、基本的な新型コロナウイルス感染症対策を行いながら運営いたしました。
- ・ 月に一度の誕生会では集団遊びを行い、高齢施設の厨房から手作りおやつを提供しました。
- ・ 夏休み、春休みにはバスを借りて学童クラブ全体で遠足に行き、子どもたちのみならず保護者からも好評を得ました。
- ・ 長期学校休暇期間以外にも、駄菓子屋さんなどのイベントを行い子どもたちに好評でした。
- ・ 児童の新型コロナウイルス感染症に関する報告、連絡は赤坂支所に迅速に行い、学童保護者にすぐメールによる周知を行いました。

3. 子育てひろばの運営

- ・ 子育てひろばはいつでも気軽に、ゆっくり自分たちのペースで交流できる場となるよう環境を整えました。
- ・ 定期的に年齢別活動、テーマ別活動を行うことで、ほかの親子との関係をつないだり、子どもとの接し方や遊び方のヒントを提示することができました。
- ・ 講師による造形、絵画活動は特に人気で、令和4年度で唯一、オンライン申し込み方法を取り入れました。今後のICT化に向けた第一歩といえます。

4. 職員体制の連携

- ・ 分館である赤坂子ども中高生プラザ青山館と定期的な情報交換、意見交換を行い、連携行事を行いました。昨年度の反省を活かし、詳細なルールのすり合わせを行い2つの館を利用している利用者の混乱を未然に防ぐことができました。
- ・ 職員間での交流、応援体制を整え、本館分館での新型コロナ感染症や急な欠勤における運営体制のバックアップを行いました。
- ・ 児童館祭りなど大きな行事の際には、職員を派遣やお互いの館の紹介コーナーなどを設けました。

5. 館内外で発生した事故

- 事故等の発生の際は、職員による適切な初期対応を行いました。また、活動による事故やケガ等が発生しないよう、施設設備の安全面の点検を定期的に行い、不具合箇所の修繕等を実施しました。
- 今年度、大きな事故やケガは1件もありませんでした。ただし、通学路の往路で小さなケガなどがあったので、職員から学校帰りや児童館からの帰宅の際に注意喚起を促しました。
- 今後も、より一層の安全・安心に過ごせる施設であるよう運営を行っていきます。